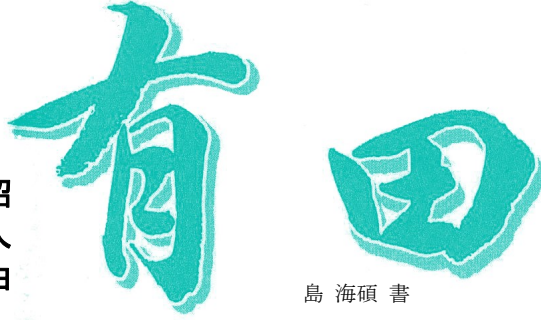


No. 3145

2025-2026年度

会 長 木本 隆昭  
幹 事 児嶋 正人  
クラブ広報小委員長 福田 一由



島海碩書

第2640地区  
例会日 毎週木曜日 12:30  
例会場 紀州有田商工会議所6F  
事務所 〒649-0304  
有田市箕島33-1  
紀州有田商工会議所2F  
有田ロータリークラブ  
Tel (0737) 82-3128  
Fax (0737) 82-1020  
創 立 昭和34年6月15日  
ホームページ <http://www.aridarc.jp>  
e-mail [office@aridarc.jp](mailto:office@aridarc.jp)

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



よいことのために  
手を取りあおう

2025-2026年度クラブ方針

「例会に出席しよう

みんなに会おう」



次回のお知らせ

令和8年4月2日 第3147回

- ・会員卓話：中村 吉伸君  
「児童・生徒へのがん教育」
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

本日のプログラム

令和8年3月26日 第3146回

- ・外部卓話：荻野慎譜氏「有田を取り巻く化石の活用方法を長期的視点で考える」
- ・ソング：「我等の生業」

前回の報告（第3145回例会）

開催日 令和8年3月12日(木)

点 鐘 [木本会長]

ゲストの紹介

[クラブ管理運営委員会 橋爪(誠)委員長]

ゲスト:瑞樹 比美香氏(ソプラノ歌手)、栗山 卓氏

退会の挨拶



転勤のため、3月末で退会される手島政嘉君より、ご挨拶をいただきました。

ニコニコ箱の報告 [川口SAA]

木本君:瑞樹比美香様、栗山卓様、ようこそ有田ロータリークラブへ。瑞樹様、本日の卓話宜しくお願ひ致します。

成川(守)君:瑞樹比美香様、ようこそ有田RCへ。素敵なソプラノを拝聴させていただきます。

石垣君:瑞樹比美香様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

岩橋君:瑞樹比美香さん、卓話楽しみです。

上野山(捷)君:瑞樹比美香様、ようこそ有田RCへお越し下さいました。楽しみにしています。

橋爪(正)君:瑞樹比美香様、本日は楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。手島政嘉様、良き出会いとなりました。岡山でもお元気で頑張ってください。

中村君:瑞樹様ようこそ有田RCへ卓話楽しみです。

宮井君:瑞樹比美香様、ようこそ有田RCへ。卓話よろしくお願ひ致します。

松村君:瑞樹比美香様、声のご奉仕楽しみにしています。上野山(栄)君:手島さん、お世話になりありがとうございます。

益々のご活躍をご祈念いたします。瑞樹様、本日は有田ロータリークラブにお越し下さいましてありがとうございます。卓話楽しみです。栗山様、お越し下さいましてうれしく思います。ロータリーをお楽しみ下さいね。

橋爪(誠)君:瑞樹様、本日の卓話楽しみです。親睦家族旅行楽しみです！酒井小委員長ごくろうさま！当日よろしくね。菅原さん、PELS頑張ってください。

井上君:瑞樹様、本日の卓話よろしくお願ひします。

菅原君:瑞樹様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話楽しみにしています。宜しくお願ひ致します。

嶋田君:瑞樹比美香様、ようこそ有田ロータリークラブへ。卓話楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。

手島君:瑞樹様、本日の卓話宜しくお願ひいたします。本日は残念ながら最後の例会出席となります。4年8ヵ月大変お世話になりました。

福田君:瑞樹比美香様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

川口君:瑞樹比美香様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話宜しくお願ひいたします。楽しみです。手島さん、これまでありがとうございます。

出席報告

[例会運営小委員会 上野山(栄)委員]

本日の出席者17名/24名

(うち出席規定免除者7名/7名)

会長の時間 [木本会長]

皆さん、こんにちは。3月はロータリーの水と衛生月間です。本日は、水についてお話しします。地球は太陽系で

唯一液体の水が存在する「水の惑星」です。この水が生命の誕生と繁栄を支え、地球の気候を維持していますが、その97.5%は海水であり、淡水は地球上のわずか2.5%程度です。また、その大部分は北極・南極の氷や地下水として存在するため、私たちが実際に利用可能な水は約0.01%しか存在せず、「水の惑星」と呼ばれるほど水が豊富ですが、利用可能な水は非常に限られています。



世界では約22億人が安全に管理された飲み水を使用できず、約1億1500万人は河川や湖の未処理の水を飲用しています。

一方では日本は水資源が豊かというイメージがありますが、輸入による農産物や工業製品には原産国で大量の水が消費されており、「バーチャルウォーター」の輸入大国です。このことは、以前、成川PDGの卓話で教わりました。食料自給率向上、食品ロス削減、地産地消を推進することにより、海外の貴重な水資源を消費せず、生産国が自国でその水資源を利用できます。

また、ロータリー財団への寄付なども有効な手段です。ロータリーはこれまで何十年にもわたり、井戸を掘り、貯水タンクを設置するなど、人々が安全な水を利用できるように支援しています。

私自身できることとしては、日々の節水や、汚れた食器の油汚れを拭き取って洗うなど水質汚染防止に努めていきます。また、バーチャルウォーターの消費を減らすため、食料品は国産品を購入し、大好きな牛丼は超特盛から特盛にサイズダウンするなどして、水資源の保護と自分の体の削減を心掛けていきます。

※吉〇家の牛丼は輸入肉と輸入米を使っているのだからバーチャルウォーターの塊です。

### 幹事報告 [菅原君]

- 1.3月のロータリーレートは1ドル156円です。
- 2.粉河RCから週報が届いています。回覧しています。
- 3.各クラブの例会変更は後方掲示板にて閲覧願います。

### ロータリー友誌の紹介

[クラブ広報小委員会 成川(暢)委員 代読 松村君]

#### 【横組】

P3 RI会長のメッセージが掲載されています。3月は、「水と衛生月間」です。人里離れた森を流れる川から、都市部を通る小川に至るまで、淡水の生態系は人類の暮らしを支えています。しかし、近年、これらの水への負担は増大しています。汚染や過剰理由、気候変動の影響は、淡水の保護が世界共通の課題であることを、改めて私たちに突き付けています。「水と衛生月間」に当たり、皆さんの地域社会を支える淡水の仕組みと、それを守るためにロータリーが果たせる役割について、改めて考えてみてくださいと会長は述べられています。また、パナマ・ノルデステ・ロータリークラブが主導する水プロジェクトが、この考えを体現しているとも述べられています。

P4～P11 特集記事として「植物を使った水質改善の取り

組み」が紹介されています。また、2023～2025年度第2770地区グローバル補助金奨学生 国土交通省国土交通政策研究所研究官 筒井康美氏の水と衛生の持続的なマネジメントについて掲載されています。

P12～P15 2026-2027年度国際ロータリー会長 オンラインカ・ハキーム・ババロラ氏のインタビュー記事が掲載されています。

P18～P19 第2660地区特別企画 チャリティーボウリング大会について報告されています。

P24～P25 Campus&Diaryとして、公益財団法人PHD協会 2025年度第41期研修生ルビー氏の日本での経験談の記事が掲載されています。

P35 インターアクター柴田和史氏のインターアクトクラブ活動についての記事が掲載されています。

#### 【縦組】

P2～P6 兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究会 教授 木村玲王氏が、第2680地区・南淡路RC主催防災講演会で「南海トラフ巨大地震を乗り越える～臨時情報・新被害想定と備えのヒント」という演題で講演をいただいた内容が掲載されています。我々の2640地区も南海トラフ地震の被害が想定されます。皆様ご一読よろしくお祈りします。

P7～P10 「この人訪ねて」のコーナーでは、熊本県人吉中央ロータリークラブ村田優子氏が紹介されています。熊本県の最南部にあたる人吉市で宿泊業を営み、熊本地震・コロナ禍・大水害といういくつかの試練を乗り越えながら、事業を継続拡大していく体験談が掲載されています。ご一読ください。

### 委員会報告

※クラブ管理運営委員会〔橋爪(誠)委員長〕  
親睦家族旅行の件

### 卓話



ソプラノ歌手  
瑞樹 比美香 氏

#### 「声の奉仕 ～音楽で地域と心をつなぐ～」

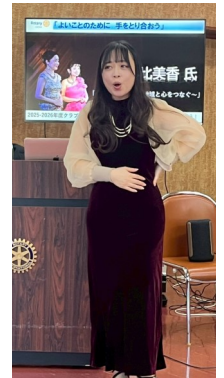
このたび卓話の機会をいただき、誠にありがとうございます。和歌山を拠点に活動しておりますソプラノ歌手の瑞樹比美香です。日頃より、それぞれの職業を通して地域や社会に奉仕されているロータリークラブの皆さまに、心より敬意を表します。

私は幼少期から転居や転校を繰り返す環境の中で育ちましたが、合唱を通して音楽と出会い、歌が心の支えとなってきました。その後オペラに魅了され、海外で学ぶ機会を得ましたが、そこで強く意識したのが「日本人としてのアイデンティティー」でした。日本文化を自分の言葉で語れない悔しさから帰国し、仏教音楽や声明など、日

本の精神文化と声の力を学び、あらためてその大切さを感じました。現在はご縁あって海南市下津町の長保寺に暮らし、歌とともに地域に根ざした生活を送っています。歌手の仕事は華やかに見えますが、実際はとても地道なものです。声は心と体、その人の生き方そのものが表れます。病院や地域、寺院で歌う中で、「元気が出た」「心が軽くなった」という言葉をいただくたび、歌は人に寄り添う“目に見えない奉仕”なのだと感じるようになりました。

自然と歴史に恵まれた和歌山で、文化を育み、次の世代へ手渡していくこと。それは企業活動や奉仕活動と同じく、長い時間をかけて地域を支える営みだと思えます。私にできることを、今ある環境の中で、最大限に努力し、今後も音楽を通して地域の心をあたためていけたら幸いです。

例会風景



閉会・点鐘

〔木本会長〕

2025-2026年度親睦家族旅行  
2026年3月15日（日）

